

科目・教育内容

科目名	在宅看護概論	
単 位	1単位 : 15時間	
開講期	2年次 4月	
講師名	専任教員	
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の概念と必要性について理解する 2. 在宅看護の対象を理解する 3. 在宅看護活動の概念について理解する 4. 在宅看護における関係職種と社会資源について理解する 5. 在宅看護における倫理と基本理念について理解する 6. 在宅看護の歴史とこれからの展望について理解する 	
授業内容・予定		授業形態
1回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護の意義 2) 在宅ケアと在宅看護の関連 3) 地域看護と在宅看護の関連 4) 施設内看護との相違 2. 在宅看護の社会的背景と現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の高齢社会 2) 家族構成の変化 3) 高齢者の福祉施策の概要と在宅看護 4) 地域包括ケアとは 	講義
2回目	<ol style="list-style-type: none"> 3. 在宅看護の対象 <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養者の理解 (疾患・年齢・介護度・保険) 2) 家族の理解 3) 地域社会の理解 	講義
3回目	<ol style="list-style-type: none"> 4. 在宅看護の活動 (概念) <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護成立の条件 2) 在宅看護を提供する場 3) 訪問看護の特徴と活動内容 	講義
4回目	<ol style="list-style-type: none"> 5. 在宅看護における関係職種と社会理念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護と保健医療制度 2) 関係機関と関係職種 3) 関係職種と在宅看護の連携 4) 社会資源の活用 	講義
5回目	<ol style="list-style-type: none"> 6. 地域医療を支える制度 (概要) <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療保険制度 2) 生活保護制度 3) 介護保険制度 	講義
6回目	<ol style="list-style-type: none"> 4) 障害者に関連する法律 5) 難病法 6) 子どもの在宅医療を支える制 	講義
7回目	<ol style="list-style-type: none"> 7. 在宅看護における倫理と基本理念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人権の尊重と権利 2) 期待される在宅看護と倫理性 	講義

	3) 社会的機能としての看護の責務	
8回目 (45分)	8. 在宅看護の歴史と展望 1) 日本の在宅看護の変遷 2) 欧米における在宅看護の変遷 3) これからの在宅看護の展望	講義
評価	筆記試験 100点	
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア	
参考文献	配布資料	
その他		

科目・教育内容

科目名	在宅看護方法論 I	
単 位	1 単位：30 時間	
開講期	2 年次 5 月	
講師名	非常勤講師、看護師、専任教員	
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携について理解する 2. 在宅看護におけるケアマネジメントの必要性について理解する 3. 介護保険の目的と対象、活用内容について理解する 4. 訪問看護の役割と訪問看護師に求められる役割を理解する 5. 療養の場の移行に伴う看護と他職種・機関との連携について理解する 6. 公衆衛生看護活動と医療・福祉の連携について理解する 7. 病期に応じた在宅療養者への支援について理解する 8. 認知機能障害のある在宅療養者と家族への支援について理解する 	
授業内容・予定		授業形態
1 回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムにおける他職種連携 <ol style="list-style-type: none"> 1) 行政との連携 2) 地域包括支援センターとの連携 3) 居宅支援事業所との連携 4) 介護サービス事業所との連携 5) 住民との連携 	講義
2 回目	<ol style="list-style-type: none"> 2. 在宅看護とケアマネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1) ケアマネジメントとは 2) ケアマネージャー（介護支援専門員）の役割 3) ケアマネジメント過程 4) ケアプランの作成 5) 社会資源の種類・活用方法 	講義
3 回目	<ol style="list-style-type: none"> 3. 介護保険制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 制度の概要と仕組み 2) 被保険者 3) 介護予防サービス・介護サービスの給付手続き 4) 地域包括支援センター 5) 介護保険と医療保険の調整 	講義
4 回目	<ol style="list-style-type: none"> 4. 障害者に関連する法律 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害の分類、障害者認定 2) 障害者総合支援法の法的枠組み 3) 障害者総合支援サービスの仕組みと提供 	講義
5 回目	<ol style="list-style-type: none"> 4) 精神保健福祉法 5) 難病にかかる医療費助成制度 	講義
6 回目	<ol style="list-style-type: none"> 5. 訪問看護制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護制度の法的枠組み 2) 訪問看護サービスの仕組みと提供 	講義

7回目	6. 療養の場の移行に伴う看護 1) 退院計画における看護師の役割 2) 継続看護システム	講義
8回目	3) 医療機関との入退院の連携 4) 施設との入退所時の連携	講義
9回目	7. 公衆衛生から見た医療・保健・福祉の連携 1) 公衆衛生看護とは 2) 公衆衛生看護からみた医療・福祉との連携	講義
10回目	3) 公衆衛生看護活動の実際	講義
11回目	8. 病期に応じた看護 1) 急性期にある療養者 (1) 状態に合わせた対応・調整 (2) 急性症状への対応 (3) 感染症への対応 2) 回復期にある療養者 (1) 在宅におけるリハビリテーション (2) 居住空間のアセスメントと対応・調整	講義
12回目	3) 慢性期にある療養者 (1) 状態に合わせた対応・調整 (2) 急性増悪の早期発見と対応 (3) 化学療法・放射線療法の外来通院中の療養者に対する援助	講義
13回目	4) 終末期にある療養者 (1) 症状マネジメント (2) 終末期緩和ケアの実際 (3) 緊急時の連絡	講義
14回目	(4) 看取りの援助 (5) 家族へのグリーフケア	講義
15回目	8. 認知機能障害のある療養者とその家族への支援 1) 刺激の調整 2) 身体的な不快感や苦痛の早期発見と緩和 3) 症状への対応 4) コミュニケーション	
評価	筆記試験	
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア	
参考文献	配布資料 押川真喜子：在宅で死ぬということ（文春文庫）	
その他		

科目・教育内容

科目名	在宅看護方法論Ⅱ	
単 位	1単位：30時間	
開講期	2年次9月	
講師名	看護師、専任教員	
目 標	1. 在宅における生活の特徴とアセスメントの視点について理解する 2. 在宅看護に必要な援助内容及び援助技術について理解する 3. 在宅看護に必要な看護技術を習得する 4. 事例を通して、さまざまな在宅療養者への看護活動を理解する	
授業内容・予定		授業形態
1回目	1. 在宅における看護技術援助 1) 腹膜透析 (CAPD) の援助 (1) 在宅腹膜透析の実際 2) 服薬管理 (1) 服薬管理の実際 ①インスリン自己注射	講義
2回目	3) 排泄の援助 (1) 在宅での排泄の特徴 (2) 排尿・排便のアセスメント (3) 排泄障害者への援助	講義
3回目	(4) 排尿・排便の援助の実際 ①排泄補助用具 ②膀胱留置カテーテル ③摘便 ④ストーマ	講義・演習
4回目	4) 清潔の援助 (1) 在宅における清潔援助の特徴 (2) 清潔のアセスメント (3) 清潔援助の実際 ①在宅における褥瘡ケア	講義
5回目	5) 移動の援助 (1) 在宅での移動・移送の特徴 (2) 在宅での移動・移送のアセスメント (3) 在宅での移動・移送の援助の実際	講義・演習
6回目	6) 呼吸の援助 (1) 在宅看護における呼吸管理・ケアの特徴 (2) 呼吸機能のアセスメント (3) 呼吸援助の実際 ①姿勢の工夫 ②呼吸理学療法と排痰	講義
7回目	③気管カニューレと吸引 ④在宅酸素療法 ⑤在宅人工呼吸療法 ⑥非侵襲的陽圧換気療法	講義・演習

8回目	8) 食の援助 (1) 在宅での食生活の特徴 (2) 食生活・嚥下に関するアセスメント (3) 食生活・嚥下への援助の実際 ①在宅経管栄養法 ②胃瘻 ③在宅中心静脈栄養法	講義・ 演習
9回目	在宅経管栄養法の実際	演習
10回目	在宅経管栄養法の実際	演習
11回目	2. 在宅看護活動としての訪問看護 1) 訪問前の準備・必要物品の確認 2) 訪問におけるマナーと倫理 3) 訪問時のコミュニケーション 4) 療養者と家族の生活様式と価値観の尊重	講義
12回目	3. さまざまな在宅療養者 1) 脳血管障害がある在宅療養者に対する看護	講義
13回目	2) 精神疾患がある在宅療養者に対する看護	講義
14回目	3) 難病がある在宅療養者に対する看護	講義
15回目	4) 小児の在宅療養者に対する看護	講義
評価	筆記試験	
使用テキスト	メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論②地域療養を支える技術	
参考文献	配布資料 看護技術プラクティス 第3版	
その他		

科目・教育内容

科目名	在宅看護演習	
単 位	1単位：30時間	
開講期	2年次10月	
講師名	専任教員	
目 標	1. 終末期にある在宅療養者への看護展開を理解する 2. 難病をもつ在宅療養者への看護展開を理解する	
講義内容・予定		授業形態
1回目	事例1. 末期がん患者の在宅療養者の事例展開（終末期） 在宅看護過程について 実習記録様式の説明、冬休み課題	講義
2回目	事例検討、アセスメントの視点	講義
3回目	様式1：情報の整理（プロフィール、療養者の状況）	講義
4回目	様式2：情報の分析と関連性 1) 療養者、家族の思い 2) 療養者・家族の健康状態 3) 必要な医療処置と生活援助	講義
5回目	様式2、3 1) 社会資源、サービスの活用 2) 家族への支援	講義、GW
6回目	様式3：療養者、家族の情報に対する分析のまとめ	講義、GW
7回目	様式3、4：解決すべき生活の課題、看護	講義、GW
8回目	様式4：看護目標の設定と看護計画の立案	講義、GW
9回目	様式4：看護計画の評価・修正	演習
10回目	事例2. 難病を持つ在宅療養者への看護展開 事例紹介・疾患理解	講義、GW
11回目	様式1、2：情報の整理（プロフィール、療養者の状況）	講義
12回目	様式2：社会資源の活用	講義、GW
13回目	様式3：解決すべき生活の課題、看護	講義
14回目	様式4：看護目標の設定と看護計画の立案	講義、GW
15回目	様式4：看護計画の評価・修正	講義
評価	演習記録 70点、ミニテスト・レポート他 30点	
使用テキスト	ナーシンググラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア 在宅看護論②在宅療養を支える技術	
参考文献	押川真喜子：在宅で死ぬということ（文春文庫）	
その他		

科目・教育内容

科目名	看護管理	
単 位	1単位：30時間	
開講期	3年次10月	
講師名	看護師、非常勤講師	
目 標	1. 看護マネージメントについての基本的な考え方を学ぶ 2. 国際協力における看護の役割を理解する。 3. 災害看護の基礎的知識を習得する。	
授業内容・予定		授業形態
1回目	看護管理とは 1. 看護管理の定義 1) WHO看護管理セミナーの定義 2) 日本看護協会の臨床における看護管理 4) 業務を効果的に引き出すために	講義
2回目	2. 看護管理の内容 1) 管理者としての管理 2) 個々の看護師としての管理	講義
3回目	3. 看護管理の機能 1) 条件 2) 目的 3) 効果	講義
4回目	看護管理とリーダーシップ 1. リーダーシップの定義 2. リーダーとは 1) リーダーの資格 2) リーダーのスタイル 3) リーダーの職務 3. リーダーシップと看護 1) 個々の患者のケア 2) 日常業務内容 3) コーディネイト場面 4. 看護師のモラル	講義
5回目	病院における看護管理 1. 組織とは 2. 病院の組織 3. 看護部の組織	講義
6回目	4. 看護管理者としての職務 5. 看護方式 1) 看護単位 2) 看護方式 3) 勤務体制	講義
7回目	看護行政と看護活動 1. 看護行政の組織 2. 看護師の需要と供給 3. 診療報酬体系と看護	講義

	4. 看護師労働環境と労働条件	
8回目	国際保健・看護：世界の健康、健康をとらえる指標 1. 開発途上国の定義 2. 世界の健康問題の現状 1) 人口の変化 2) 先進国と発展途上国の格差 3) 死因	講義
9回目	国際保健・看護：国際協力 3. ミレニアム開発目標 4. 国際協力の仕組み	講義
10回目	国際保健・看護：医療協力の実際と評価 5. 国際看護活動の展開	講義
11回目	災害看護とは 1. 災害看護の概念と構造 1) 災害看護の具体的な取り組みの始まり 2) 災害概念 3) 災害看護とは 2. 災害と健康 1) 災害を受けやすい国土 2) 災害が人々の健康に及ぼす影響	講義
12回目	3. 災害サイクルに沿った看護活動 1) 災害サイクルとは 2) 災害サイクル別の看護活動	講義
13回目	4. 心理的回復過程	講義
14回目	5. 災害への備えとそのシステム 1) 災害準備期の看護 2) 災害に備えたシステムの整備	講義
15回目	トリアージの実際	演習
評価	筆記試験 100点	
使用テキスト	看護管理、災害看護学・国際看護学：医学書院	
参考文献	配布資料	
その他		

科目・教育内容

科目名	医療安全	
単 位	1単位：30時間	
開講期	3年次 5月	
講師名	看護師、専任教員	
目 標	1. 看護実践場面で起こり得るリスクの可能性を認識し、リスク感性を養うことができる。 2. 看護を安全に提供するために必要な事故防止策の組織的・個人的な取り組みを理解する。	
授業内容・予定		授業形態
1回目	事故防止の考え方 針刺し損傷とその後の対応	講義
2回目	医療安全とコミュニケーション 1) 事故防止のための医療チームにおけるコミュニケーション	講義
3回目	医療安全とコミュニケーション 2) 医療防止のための患者とのコミュニケーション	講義
4回目	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 1) 業務領域をこえて共通する患者間違い 2) 間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断 3) 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義
5回目	KYT (演習) 1) KYT とは何か 2) 第1ラウンド：現状把握 3) 第2ラウンド：本質追究 4) 第3、4ラウンド：対策樹立 5) 指差す呼称項目の設定、タッチアンドコール 6) KYT の実際	講義
6回目	組織的な安全管理体制への取り組み 1) システムとしての事故防止例	講義
7回目	メディカルセイファー	講義
8回目	Medical - SAFFR による事故分析	演習
9回目	Medical - SAFFR とは 1) 事象関連図の作成 2) 問題点の抽出 3) 問題点の背後要因の列挙 4) 考えられる対応策の列挙 5) 実行可能な対応策の決定 6) Medical - SAFFR による事故分析の実際	
10回目	看護業務に伴う事故防止の実際 1) 薬剤に関連した事故防止 ①薬剤の種類(ハイリスク薬)、薬剤量の計算など ②持参薬の間違い	講義
11回目	③口頭指示による薬剤の間違い ④抗がん剤の使用に関連した事故防止 2) 輸血に伴う事故防止	講義
12回目	3) ドレーン・チューブ類の使用管理に関連した事故防止 4) 治療・処置に伴う事故防止	講義

	①グリセリン浣腸 ②酸素投与 ③気管切開カニューレ など	
13回目	5) 医療機器の使用管理に伴う事故防止 ①人工呼吸器に関連した事故防止 ②輸液ポンプ・シリンジポンプの使用管理	演習
14回目	6) 療養上の世話に伴う事故防止 ①熱傷 ②転倒転落	講義
15回目	7) 転倒転落事故防止の実際 (排尿介助、点滴を受けている患者の移動) 8) ヒヤリハット事例の共有	講義・演習
評価	筆記試験	
使用テキスト	看護学テキスト NiCE 医療安全：南江堂	
参考文献	配布資料	
その他		

科目・教育内容

科目名	臨床看護実践統合演習 I	
単 位	1 単位：15 時間	
開講期	3 年次 5 月	
講師名	専任教員	
目 標	1. 複数の患者の看護計画を立案し、ケアの優先順位の考え方について理解する。 2. 多重課題の実際を通して複数患者への看護実践と割り込み状況への対応方法について理解する。 3. 割り込み業務発生時の対応の仕方について理解する。	
授業内容・予定		授業形態
1 回目	1. 複数患者受け持ち時の看護 1) 複数患者を受け持つための情報収集・管理 2) 1 日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 (1) 看護計画の立案 (2) 優先順位の考え方 (3) 行動計画立案の考え方	講義
2 回目	2. 多重課題の対応 1) 多重課題の危険性 2) 割り込み業務への対応と優先順位の考え方	講義
3 回目	3. 複数患者受け持ち時の看護の実際	講義
4 回目	1) ペーパーペイシエントでの検討 (グループワーク)	
5 回目	2) ロールプレイ実施 (模擬患者 2 名設定)	講義
6 回目	・演習事例の提示、計画立案 (個人ワーク)	
7 回目	・実施・実施後の自己評価・プロセスレコードの記載	
8 回目	3) ロールプレイ後のリフレクション (グループワーク)	講義
評価	筆記試験 (45 分) 多重課題の実際	
使用テキスト	看護の統合と実践①看護実践マネジメント 医療安全 杉 加ルド'	
参考文献		
その他		

科目・教育内容

科目名	臨床看護実践統合演習Ⅱ	
単 位	1単位：30時間	
開講期	3年次 10月	
講師名	専任教員	
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療における連携・協力の仕方について理解する。 2. 注射法の実際について理解でき、モデル人形に注射法を実施できる。 3. 急変時の協力依頼方法やアセスメント・対応について理解する。 4. 救急蘇生法をモデル人形に実施できる。 5. 血液検体の管理方法について理解する。 6. 薬剤管理と感染予防の実際と方法について理解する。 7. 薬理作用の強い薬物療法を受ける患者の看護について理解する。 	
授業内容・予定		授業形態
1回目	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) チームにおける協働について 2) メンバーの役割・リーダーの役割 3) 連絡・報告・相談の経路と方法 4) 他職種との連携の方法 5) クリティカルパスの役割 	講義
2回目	<ol style="list-style-type: none"> 2. チーム医療の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) ペーパーペイシエントでの事例検討（各職種の役割と責任について） 2) 実習場面の振り返り（レポート） 	講義
3回目	<ol style="list-style-type: none"> 3. 薬物療法（強い薬理作用）に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器治療薬 	講義
4回目	<ol style="list-style-type: none"> 4. 薬物療法（強い薬理作用）に伴う看護 <ol style="list-style-type: none"> 2) ステロイドホルモン 3) その他 	講義
5回目	<ol style="list-style-type: none"> 5. 血液検体の管理（講義・見学2h） <ol style="list-style-type: none"> 1) 採血後の血液の取り扱い方法 2) 検査値に影響を与える因子 3) 血液検査方法の実際 	講義
6回目	<ol style="list-style-type: none"> 6. 薬剤管理と感染予防（講義・見学2h） <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬剤の管理方法の実際 2) 抗がん剤曝露防止の方法 	講義
7回目 8回目	<ol style="list-style-type: none"> 7. 急変時の対応の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命の危機に直結する異変の見分け方 2) 症例学習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 出血性ショック時のアセスメント・判断・対応 (2) アナフィラキシーショック時のアセスメント・判断・対応 3) シナリオによる心肺蘇生法の実際（到達度技術確認を含む） 	講義 演習
9回目	<ol style="list-style-type: none"> 8. 注射法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 皮内・皮下・筋肉内注射に必要な基礎知識の確認 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各注射部位と刺入角度 (2) 観察点と留意事項 	講義

	<ul style="list-style-type: none"> (3) インシュリン製剤の種類に応じた投与方法 (4) インシュリン製剤を予薬されている患者の観察点 <p>2) 静脈内注射・点滴静脈内注射における基礎知識の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 必要物品 (2) 注射部位と刺入角度 (3) 実施手順 (4) 観察点と留意事項 <p>9. 輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 輸液ポンプ・シリンジポンプの構造 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプの基本的操作法 	
<p>10回目</p> <p>11回目</p> <p>12回目</p> <p>13回目</p> <p>14回目</p> <p>15回目</p>	<p>10. 各注射法の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 皮下注射法の実施 2) 筋肉内注射法の実施 3) 静脈内注射・点滴静脈内注射の実施 4) 輸液ポンプ・シリンジポンプの基本的操作法の実施 <p>《1)～4)到達度技術確認を含む》</p>	演習
評価	筆記試験 *注射・BLSは技術チェック	
使用テキスト	<p>看護の統合と実践①看護実践マネジメント 医療安全 ㊦ カルピト*</p> <p>新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ ㊦ カルピト*</p> <p>看護技術プラクティス第3版 学研</p> <p>完全版ビジュアル臨床看護技術 照林社</p>	
参考文献		
その他		